

2012国際協同組合年長野県宣言

協同組合は、共通の願いを持つ人々が出資し、民主的かつ自主的に運営される組織であり、活動や事業を通じてその願いをかなえることを目的としています。

国際連合は、2012年を国際協同組合年とすることを宣言しました。その背景としては、協同組合がもたらす社会経済的発展への貢献が国際的に認められ、特に協同組合が貧困削減・仕事の創出・社会的統合に果たす役割が着目されているところです。

世界的には爆発的な人口増加やグローバル化、国内においては人口減少や少子高齢化、規制緩和などにより、経済的格差・地域的格差・精神的な格差など様々な「格差」が生まれ拡大し、社会的歪みが増幅しています。さらには市場原理主義や経済成長優先により、人間性が軽視される傾向もあります。

こうした中、昨年3月11日に発生した東日本大震災また東京電力福島第一原子力発電所の事故は、日本国民のこれまでの生活に警鐘を鳴らし、絆や助けあいなど協同や相互扶助が必要不可欠であることを再認識させたところでもあります。

私達、2012国際協同組合年長野県実行委員会に集う協同組合・賛助団体は、地域活性化、失業・非正規雇用問題、環境保全や福祉向上、食料自給率向上や食の安全確保など今日的な社会的課題に対して、協同の力と知恵を持って立ち向かい、その課題解決に努力します。

そして、より多くの理解者・賛同者を拡大するとともに、自らの活動や事業の一層の向上を図り、協同組合運動の発展を通じて、心豊かに暮らしやすい長野県づくりに貢献することをここに宣言します。

平成24年1月28日

2012国際協同組合年長野県実行委員会